

## 東京 IPO 特別コラム

2019年11月25日 Vol.154

### 再びホットになるか IPO 市場

日経平均が2018年10月の高値に向け戻り歩調を強めているのに対してベンチャー企業や中小型株指数の代表であるマザーズ指数には出遅れ感が強かった。高いボラティリティを求めてリスクマネーが集まる IPO 市場。その担い手でもある個人投資家の多くはマザーズ指数の上昇を待望しているのかも知れません。11月のIPO銘柄が2銘柄にとどまり、個人投資家の関心度が低下する中でソフトバンクグループが出資したシェアオフィス WeWork を展開するウィー社の上場見送りもあってIPO市場はクールダウンしてしまったとの印象があるが、12月は一気に23銘柄が登場してくる。このため個人投資家などのホットマネーが市場に戻ってくるとの期待が高まりつつある。

2019年のIPO市場には11月までに64銘柄が登場。一部の銘柄を除いて概ね好需給に支えられて順調な初値形成とその後の株高が見られたがIPO後の時間の経過とともに期待が失望に変わった銘柄も散見される。ただ、そうした調整銘柄の中には2020年に向け投資チャンスを提供してくれている銘柄も見出せる。23の銘柄が登場する12月はIPO市場の活性化が市場命題となる。IPO銘柄の特徴でもある株価の変動、つまり公開価格に対しての初値、その後の高値、安値そして時価を見比べながらリスクテイクを図る投資家の姿が今後活発化することになると筆者は期待している。12月のIPOのうち19銘柄はマザーズへの上場銘柄。サンバイオなどの創薬企業の株価急落で傷んだマザーズ銘柄の復活は新たに登場する19の銘柄の活躍で、同指数の上昇トレンドへの復帰を実現する契機となるだろう。

その走りとなる兆候が個別株には見られる。とりわけ、先般福証Qボードから東証マザーズ市場に昇格した熊本県山鹿市に本社を置く住宅メーカー、LibWork (1431)の株価はマザーズ上場直後の1100円前後から一気に4000円台まで一気に4倍の水準まで値を飛ばすなどマザーズらしい株価変動が見られるようになってきた。これが引き金となるかは定かではないが、マザーズ中心のIPO相場への期待を高めてくれるだろう。

12月10日にマザーズ上場予定の天気予報専門サイトのALINKインターネット(7077)、11日のクラウドファンディングプラットフォームを運営するマクアケ(4479)、12日の人材採用システム会社、メドレー(4480)といったITシステム会社などまずは12月前半に出てくるマザーズ銘柄に注目。公開価格はこれから決定されるが、前半戦はIPOラッシュとなる中盤戦に向けた試金石となる。1日、2から3社のIPOが予定されている16日から20日にかけての上場をうまく消化できるか見守ることにしたい。ここでの活発な取引を経て87銘柄というIPO企業を受け入れた2019年のIPO市場は有終の美を飾ることになる。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)